

# 新高退通信

## No.122

HP : shin-koutai.jimdo.com

mail : shin.koutai@gmail.com

# 新潟高教組

発行所/新潟県高等学校教職員組合/新潟市中央区川岸町2-11/T E L (265)4151/F A X (231)1036 / 1部10円 (購読料は組合費に包含)

発行人 小堺 吉清

2016年3月1日  
号外

新潟県高等学校  
退職者の会

事務局  
〒951-8133  
新潟市中央区川岸町2-11-4  
(高校会館内)

退職者の会専用電話  
025-265-1110



笠菅山(630m)登山途中のひとこま 2015.10.26

新津支部「どんぐりの会」は例年通り、今年度も、「蕎麦と天麩羅の会(5月)」、「紅葉狩りと芋煮会(11月)」、「カンジキを履いて(2月)」と3回の活動を行った。今号では、そのうちの2回についての報告と、いずれの会も里山登山を組み合わせているので、その計画の苦労話を語ってもらった。

### 支部同好会活動報告

## 「いも煮の集い」「焼酎の集い」の活動

### 「紅葉狩りの集い」

8月に案を考え、9月1日付の会報に案内を載せ現地調査を行い、10月26日の当日を迎えた。天気予報では寒くなるものの、曇り時々晴れと私たちに協力的である。JR新津駅西口を6時半に出発。当会はドライバー以外、家の戸口からアルコール可なのだが、近頃皆さん遠慮気味の様子。炊飯場に予定した三川吉津の御前ヶ鼻公園に立ち寄り、その後三川温泉先の細越集落へ。ここから登山口まで簡易舗装の狭い道となる。約2キロメートルで右側に栗園のある三叉路に到着し3台の車を駐める。

### 笠菅山登山

登る準備が完了し登り始める。

約100m先右側に地滑り工事中の看板があり、道が分岐している。直進し気がつけば舗装でなくなり急登の山道となる。赤いはげやウルシの葉、山芋、野ササゲなどの黄色い葉、さまざまに色づいた紅葉を愛でながら、小さな支尾根を辿る。雑木林の中の大杉を右にさらに上、小沢上部の大岩の下を右に巻きながら急登する。やがて緩登となると、登山口からおよそ90分で山頂近くのTV中継所に着く。

ここにザックを置き雑木林の中の踏跡を辿る。右に藪を分けると約5分で609・4mの三等三角点になる。展望がないので中継所へ下る。大杉に隠れた蒜場山が大きい。そこから左手前に岩峰の組倉山、当会で登った馬ノ髪山さらに左に棚橋山、五頭山が連なる。これらの後方右から赤津山、当会で訪ねた双峰の焼峰山、さらに左に大きく二王子岳がどっしりとしている。最後に控える飯豊は雲の



中。踵を返すと今年の冬訪れた諏訪峠が丸い頭の白髭山の左肩に見える。後方に左から日本平山、マンダロク山、菅名岳、最後に控える御神楽岳は雲の中だ。充分に展望を楽しみ来た道を下る。赤い葉のナツハゼ、その実は濃紺で丸くスツパイ。常緑葉のソヨゴの可愛い丸い赤い実、ムラサキシキブの鮮やかな紫色の小さい実などを愛でながら、時に山芋のむかごや栗茸を採る。ときおり薄日がさす小さな支尾根を降りる。下りは早い。遊びながらも45分で登山口に戻る。再度車に分乗し、ここから先左に林道を進み、温泉街を通り国道49号に出る。揚川ダムで対岸に渡り、途中清水で喉をうるおし公園に到着。

### 炊飯・献杯・温泉

手慣れたものでたちまち宴会場と炊事場が完成。芋煮鍋が仕込まれ、煮え上がる間、先程採ったむかごを茹で、塩で味付けして酒のつまみ、片や汲んだ清水でコーヒールを入れる。この会発足当初から



芋煮会はこの公園で 2015.10.26

大きく関わってくれた青木仁さんが今年14日に75歳で先立たれ、宴の始めに敬意と感謝を込めて献杯をする。

自然に負担をかけないようと、各自持参したお椀に互いに芋煮を盛り合い、それぞれの秋を内外から充分に味わい体感する。ワイワイと

楽しい時が過ぎ、久しぶりに初参加があつたので13名、あいうえお順に自己紹介と質問に応じる。そろそろ2つのお鍋の底が見え始め、ひとり3杯以上の義務を果たし、これ以上入らない！そろそろ宴を閉じる時だ。来たときよりも美しく！ゴミは各自で持ち帰る。あと片付けは早い。

近くの宝珠温泉でのんびりと湯につかり、ゆつたりと汗を流す。休憩室でもお茶を飲みながら談笑また談笑。満足感尽きない幸せ感を感じながら断ち解散とする。各方面ごとに車を持ち替えて直接帰宅とする。心身ともに充実した健康を感じる1日を無事終えた瞬間であった。

(田辺慶弘)

## 「FICHTER」

放射冷却でギンギンに冷えた未明6時30分、JR新津駅西口に10名が参集。雪国のこの時期としては、完璧な快晴に恵まれ、参加者一同幸運を喜び合う。

6時40分、2台の車に分乗して出発。水原、月岡経由で新発田市板山、黒石山の所在地を目指した。市街に出ると予想しなかった濃霧が雪原にたちこめていた。霧が晴れるにつれ、幻想的な景色が浮かび上がってくる。街路樹は霧水の花に覆われ、霧に浮かぶ周りの山々に見とれた。車は陽光を受けながら快走、予定より早く登山口に到着。地図上は「越後開閉所」になっている。

到着と同時に出発の準備。かんじきの着装時が一番賑やかである。スノウシュー、日本古来の和かん、半世紀前の金属製か



感動の林間を歩く 2016.2.8

んじきと多様だ。標高差160m、山頂まで2時間の予定で、8時10分出発。新雪の深さは約30センチ、表面はダイヤモンドダストのごとく輝く。コースは山頂まで一直線にのびる送電線の管理道路。途中2回ほど林間をショートパス、景色の美しさに疲れを忘れて、9時30分に山頂に立つことができた。山頂での小休止、至福の一時を過ごした。9時50分に下山開始、最後尾にまわり、遅れすぎないように留意し、命の揺り籠「冬芽」を観察しながら下山、10時50分登山口に到着した。

到着後は、第2部「豚汁パーティー」で乾杯、第3部 月岡「美人の湯」で疲れを癒した。加齢から運転はスパーまでとなつてしま、自力では出来ない体験をさせていただき、深く感謝しています。

(片岡 久)



# 「どんぐりの会」の創設

新津支部の「どんぐりの会」は2001年に田辺慶弘さんが作った同好会である。新潟支部の参加者も受け入れていつも盛況だ。

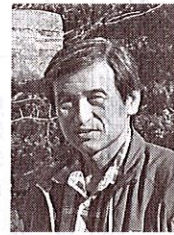
創設者の田辺さんは語る。「現役を退くと家にこもり、お互いが疎遠になりがち。これまでの絆をつなげていきたいとある日、冬の五頭『どんぐりの森』で『雪歩き』を行った。このことが会の発足となり、春は『自ら採った山菜を天ぷらそばにして食べ』、秋には『紅葉狩りと芋煮の集い』として、年3回なるべく自然に負担をかけない行事として定着させて14年が過ぎた。」

春には山菜を食し、秋には芋煮会を催し、冬は雪踏みと年3回、里山登山を組み合わせた活動を行っているっており、この2月の活動で延べ43回になったとのこと。

その里山登山は、創設以来、田辺さんと熊倉さんが計画してきた。そこで、今号ではおふたりが里山をどう発掘し、会員の様々な健康状態に対応して、登山計画を立ててきたかなどを「このひとは今」として熊倉さんから紹介してもらったことにした。(内山)

# このひとは今

熊倉孝好 新津支部(08)



中高年登山ブーム中、「どんぐりの会」はファミリー的要素

を取り入れ、高みからの展望、樹木・山野草との出会い、キノコ取り、天ぷら材料取り、温泉入浴を趣にしている。

2011年、「どんぐりの会」と関わりをもったのは、田辺さんからの相談がきっかけで、私の地元「白玉の滝」から十ヶ沢林道を経て高立山へ菩提寺山へ「石油の里」に下山する雪ごさきでした。

私が関わったこれまでの山行は、無雪期はハイキング周回コースの秋葉山(新発田市)、大将杉大木の扉山、二王子岳を正面に見る白ヶ森山・荒城山、五頭連峰の最高峰菱ヶ岳、天然杉大木の笠菅山、眼下に角神ダムを望む赤崎山、山城跡を巡る福連寺山・不動堂山、登山道が藪化したワラビ取り夢中の笠峰、カモシカに会えた露山。雪ごさきは山名が特徴の人品頭山、一里塚・石畳道の残る諏訪峠、石油の里・白玉の滝・高立

山へ菩提寺山、山城跡・一等三角点の護摩堂山がある。

この会にはいくつか暗黙の了解事項がある。

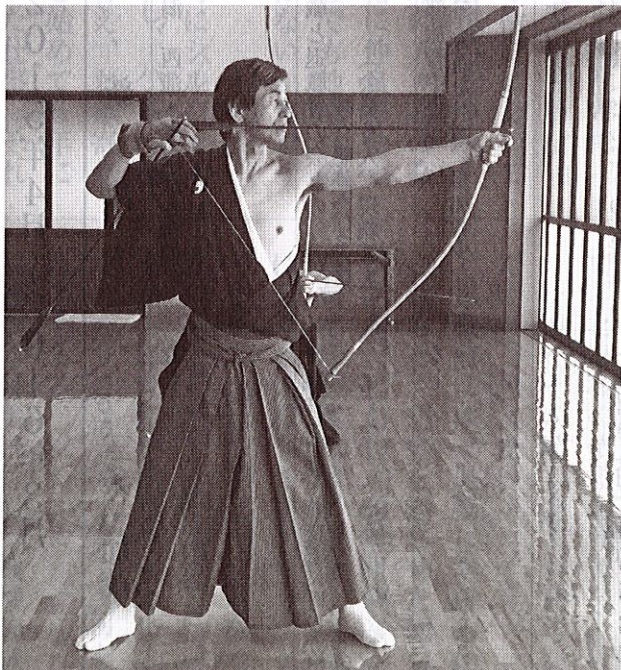
- 1、新発田、津川、五泉、新津、加茂、三条地区を南北に分け交互に登る。
- 2、雨天時のことを考え、昼食場所の東屋、炊事場の確保。
- 3、知られた山は参加者が登山済みなので、なるべく未踏頂の山。
- 4、年齢構成を考え、標高700m以内で危険な岩稜尾根がなく、お昼までに下山できる。
- 5、下山後の立ち寄り湯に入る。

ただ、この条件を満たす山はそう簡単に見つからない。事前に下見し、昼食場所、炊事場所確認も必要だ。下山後、春は「山菜天ぷらとそば」、秋には「芋煮」、が何よりのごちそうで、その後温泉入浴で疲れを癒す。これが最高で、春の新緑、

秋の紅葉、冬の白銀雪原登山を満喫しているのである。

以前は田辺さんと登った山を相談しながら探していたが、最近では当方が山行途中で見つけた300m前後の山を中心に選んでいるが、これもなくなり頭を悩ましていた。

弓道に携わっていた関係上、退職後、県弓道連盟理事長として、土・日・祭日はほぼ行事で埋まっている。郵送がなくなり、メールで送られてくるので1日に何回もパソコンを開き、県内各弓道会に書類転送、各種大会・講習会の取り纏め、申込書の送付、会議出席等忙しい日々である。



指導者講習会のヒトコマ



# 支部活動の概要

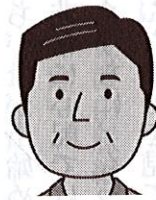
2015年4月～2016年3月

項目	支部	項目	支部	項目	支部	項目	支部
学 習 会 テーマ日時人数	新 潟 西蒲・燕、新津支部と合同 第34回新春のつどい 「誤嚥を防ぐ基礎知識」 講師・永井徹新潟福祉大准教授 (1/21) (44人)	学 習 会 テーマ日時人数	西 蒲 ・ 燕 新潟・新津支部と合同 (1/21) (5人)	学 習 会 テーマ日時人数	新 発 田 ・ 村 上 なし	学 習 会 テーマ日時人数	新 津 新潟、西蒲・燕支部と合同 (1/21) (8人)
現職支部との懇談会 テーマ日時人数	「鉄工丸事件」慰霊碑建立に学ぶ 講師・木村昭雄新高退会長 (2/24) (24人) (会員16人、現職19人)	現職支部との懇談会 テーマ日時人数	・新潟支部と合同 (2/24) (4人) ・三条・加茂支部と合同 (2/26) (1人)	現職支部との懇談会 テーマ日時人数	懇親会(2/20) (会員7人、現職8人)	現職と退職者の会との教育懇談会 (2/6) (会員6人、現職5人)	懇親会(西蒲・燕支部に呼びかけ) (2/26)
旅行的行事 その他の行事	・福島市花見山公園 (三春の滝桜と鶴ヶ城を訪ねて) (4/20・21) (19名)	旅行的行事 その他の行事	・魚沼・南魚沼を巡る旅 (7/22・23) (19人) ・秋の阿賀野市探訪の旅 (10/31) (24人)	旅行的行事 その他の行事	支部旅行中止(10/14) (会津方面を計画、参加者少なく)	旅行的行事 その他の行事	なし
支部だよりの発行	6/1・9/1・12/1・3/1 (1000号記念号16/6/1に)	支部だよりの発行	7/28・10/24	支部だよりの発行	6/1・9/1	支部だよりの発行	12/1・6/1・3/1
同好会活動 (参加人数)	①カラオケ同好会(すばるの会) (20人) ②写真同好会(写游)(15人) ③山歩き同好会(24人) ④テニス同好会(10人) ⑤シニア・ライフを楽しむ会 (支部全員対象)	同好会活動 (参加人数)	①囲碁サークル同好会(12人)	同好会活動 (参加人数)	①同好会(どんぐりの会) 蕎麦と山菜天麩羅の集い (5/22) (13人) 紅葉狩りと芋煮の集い (10/26) (13人) 雪ごさきの集い (2/8) (10人)	同好会活動 (参加人数)	・日本国(山)登山 (5/5) (6人) ・囲碁を楽しむ会(8/21) (4人) ・妙高高原散策(10/30) (7人)
項 目	長 岡	項 目	魚 沼	項 目	柏 崎	項 目	上 越
学 習 会 テーマ日時人数	・「城下町長岡と村の食文化」 『越後の食い倒れ』をめぐる 講師・田中洋史さん (長岡市立中央図書館文書資料室室長) (6/10) (28人)	学 習 会 テーマ日時人数	なし	学 習 会 テーマ日時人数	「能と謡曲を楽しむ」 講師・外山勝平さん(会員) (9/28) (14人)	学 習 会 テーマ日時人数	・「廃村の民俗」 講師・土田孝雄さん(会員) (9/8) (28人) ・支部「地域探訪」 (10/6) (23人)
現職支部との懇談会 テーマ日時人数	・「再任用制度の 退職者の会への影響」 (1/20) (会員13人、現職3人)	現職支部との懇談会 テーマ日時人数	・懇親会(12/3) (会員3人、現職9人)	現職支部との懇談会 テーマ日時人数	現職支部の引継ぎ会に合わせ て実施予定(2/26)	現職支部との懇談会 テーマ日時人数	・「高校現場・組合を取り巻く 最近の情勢」 (2/11) (会員9人、現職11人)
旅行的行事 その他の行事	中止 (参加希望者が11名と少なかったため)	旅行的行事 その他の行事	計画できず	旅行的行事 その他の行事	・実施せず	旅行的行事 その他の行事	・忘年会(会場・くわどり湯つたり村) (11/27・28) (15人) ・上越地域高齢協講演会参加
支部だよりの発行	7/10・12/11	支部だよりの発行	9/1	支部だよりの発行	4/1・7/1・12/1・4/1	支部だよりの発行	8/11・12/22
同好会活動 (参加人数)	①家庭菜園同好会(12人)	同好会活動 (参加人数)	なし	同好会活動 (参加人数)	①ハイキング同好会(10人) ②写真同好会(8人)	同好会活動 (参加人数)	①カラオケ同好会(26人) ②囲碁同好会(18人) ③ハイキング同好会(17人) ④古文書同好会(紙魚の会) (12人)
項 目	佐 渡	項 目	三 条 ・ 加 茂	項 目	三 条 ・ 加 茂	項 目	三 条 ・ 加 茂
学 習 会 テーマ日時人数	・トキ野生復帰の現状視察 (トキ野生復帰ステーション) (10/26) (18人)	学 習 会 テーマ日時人数	なし	学 習 会 テーマ日時人数	なし	学 習 会 テーマ日時人数	なし
現職支部との懇談会 テーマ日時人数	・意見交換と懇談 「地域における教育問題や 組織をめぐる諸問題等」 (12/1) (会員6人、現職7人)	現職支部との懇談会 テーマ日時人数	なし	現職支部との懇談会 テーマ日時人数	なし	現職支部との懇談会 テーマ日時人数	なし
旅行的行事 その他の行事	なし	旅行的行事 その他の行事	なし	旅行的行事 その他の行事	なし	旅行的行事 その他の行事	なし
支部だよりの発行	6/5・9/11・12/7・3未定	支部だよりの発行	なし	支部だよりの発行	なし	支部だよりの発行	なし
同好会活動 (参加人数)	①登山同好会(15人) ②釣り同好会(14人) ③囲碁同好会(13人) ④佐渡の食を知る会(11人)	同好会活動 (参加人数)	なし	同好会活動 (参加人数)	なし	同好会活動 (参加人数)	なし



# 退職後10年ののんびりと 小遣いも自分で

## 「学童保育」との出会い



新発田村上支部  
幸内 孝 (05)

工業科の実教として、2006年3月に中条工業高校を最後に定年退職しました。

その後の過ごし方については、1年目はとにかくゆっくりのんびりと過ごさせてもらい、2年目からは何か自分の「身の丈」にあった仕事（フルタイムでない）に携わり、それを70歳までは続けていく、これが退職時の私の1つの目標でありました。

あれから10年、あつという間の「古希」の到来にいささか戸惑いを感じているところです。

私は現在、胎内市の小学校で、「放課後児童支援員」（学童保育）の仕事に携わっています。（臨時職員）

「身の丈」に合った仕事とは、意外に早い出会いが訪れました。市内の5校の小学校には、私の退

職以前から「なかよしクラブ」という名の学童保育所が開設されていたのですが、退職1年目の終わり頃、子供好きの私は、何度かそれらのクラブを見学させていただ

きました。指導員の方々とも親しくさせてもらい、そんなご縁もあつたりして、私は退職2年目の4月1日付で「学童指導員」として採用され、今日に至っています。

退職2年目からの目標を、びつたり実現することができ、まずは良かったと思います。現在9年目、10年目はどうしようか、今のところ未定です。

## 「車を捨て、のんびりと」



魚沼支部  
藤巻繁雄 (05)

退職してからは月日がはやく過ぎるという間に10年が過ぎようとしています。

退職前から早寝早起きを習慣にしておりましたが、退職後は決ま

りきつての出勤から解放され、それだけでも気持ちにゆとりができて、日々の起床もとても楽しみとなりました。

とはいえ、私は理由あって定年4年前に職を辞しました。辞めようとするということも深く考えずに決断したものですから、はじめの1年は心穏やかならず、相当悩みました。ともかく母の介護をしながら、毎朝散歩をすることから始め、しばらくご無沙汰していた山登りを再開することなどで、徐々に心が落ち着いていきました。そのうちに地域の役員になって

くれないかという話がいくつもあり、これからは地域の人々との交流を一層深め、一緒に仲良くやっていくことが、少しでも地域への恩返しになるのではないかと思うようになりました。

60才になると同時にシルバー人材センターに登録し、バスの運転、障子・襖の張替え、お年寄りの送迎車の運転等を始めて6年になります。全く違った仕事、それ

までの仕事とは違う人々のお付き合いを通して、第2の人生をそれなりに楽しんでいきます。

退職してすぐ車を捨てました。普段はもっぱら歩きか自転車です。この忙しく慌ただしい世の中で時間に余裕を持つことができ、のんびりゆったりと急がず生活できる喜びをいっぱい感じております。

## 「10年の「時」」



上越支部  
千名哲爾 (05)

暮れに「新高退職」より、退職後10年の小さな自分史のタイトルで、と寄稿の依頼あり。

正直、その時「あー、10年なんだ」と、思った。

退職前には、退職したらあれもこれもと、想いを巡らせた様な気がする。しかし、60年間染みついた怠け癖が直るはずもなく、今日に至っている。

でも、退屈はしていなかったし、「あつという間に10年と」、思うからには何か忙しそうにしていたのだとも思う。???何をした???

速攻4月1日付で、地域の老人



会に入った。家業?の、寺の住職も続けている。それらにくつついて、なんやらの仕事が出てくる。いたずらに広い屋敷の掃除と草取りも結構な仕事量になる。草花をいじり、庭の手入れも時間がかかる。

「総活躍」には寄与できないがこれはこれで、ひとつの人生。これからも、こんなもんかな・

「車で日本一周を」



柏崎支部

石黒 猛 (05)

もう10年過ぎてしまったのかというのが実感。現職の頃より、世の中がどんどん右傾化して、非常に危険な住みにくい状況になってしまってきた。体の方もあちこちがたがた始めている。この先が非常に心配ではある。が、体が動くうちに、もっと旅に出て、いろんなものを見ておきたいもの。退職したときは、もう二度と教壇には立たないで、ゆつくり旅行三昧を楽しもうと思っていたのが、たまたま頼まれてしまった、講師を。1年で終わってしまったつもりが、そちらが終わったのだからとまた知り合いに頼まれてしまい、

引き続き講師をもう1年だけ勤めた。新高退の方も1年目からなんのかんのと役員を受けさせられてから、あちこちの役を引き受けざるを得なくなり、ずつと休みなく、組織に関わっている状態。その間、市の選挙管理委員も知り合いから頼まれて、2期勤める羽目に。

今年はやつとそれから解放されて、いよいよ退職時から考えていた、日本一周に取りかかるうかと考えている今日この頃である。現職時に、北海道から、四国、九州まで、沖縄以外は全県を自分の車で走破して、あちこちの温泉に入り、お城を見てきた。今でも、何とか都合をつけて、毎年数回は1泊程度の旅には出ているが、あと何年くらい自分で運転できるかわからないので、今度また、ゆつくり、以前に回った所を含めて、少しずつ刻みながら、全国を車で回ってみようと思っているところ。どこまで可能か。

「ヨット漬けの日々」



新潟支部

松月秀一 (05)

10年前、新高退通信の「新会員か

らの便り」の欄に、「趣味としてのセーリング技術を習得できるところを探しているのですが」と書いたのが、この10年間をヨットに明け暮れる生活にしたスタートだった。

柳都大橋の下流側にクルーザーヨットが整然と係留されているのを見ていたので、その人達と接触できればなんとかなるのではないかと考え、ホームページで検索したり、プレジャーボートを扱う会社の人に、「誰か知らないか」とたのんだりした。半年くらいしてから、「クラブ(新潟オフショアセーリングクラブ)の理事会があるの、そこに出てみたら」という情報が入った。

突然に理事会に顔を出し、ヨットに対する想いを訴えた。寛大なクラブで「明日ここに来ればヨットを見せてやる」との事。早速次の日に、4艇のヨットに次々と案内してもらって、各オーナーからヨットについてのいろんな話を聞かせてもらった。その1ヶ月後には高齢で「ヨットを手放したい」という会員から、中古艇を譲ってもらい、ついに念願のクルーザーヨットを手に入れることができた。退職2年目の年である。こうな

「私の10年あれこれ」



新潟支部

村山孝子 (05)

2006年、3年の早期退職。そ

ると早いもので、会員がセーリング技術など、ヨットに関するいろんなことを手取り足取り教えてくれ、お陰さまで1シーズン目の夏には風のとらえ方がなんとかわかり、新潟と寺泊間を往復することができるようになった。今は佐渡や粟島、隠岐諸島、函館や奥尻島など単独で長距離航海を楽しんでいる。

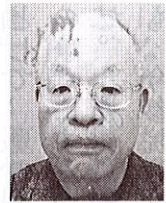
れなりの覚悟と計算をして新しい生活に入る。

◆1年目。ある信販のカードを申し込む。「残念ですが…」の返事。「無職・無収入・家族なし」では当然か。覚悟を新たにする。◆2年目。真冬に日焼けした友達の「ホノルルマラソンに出たのよ」に「私も走る！」子どものときから走るのが大の苦手だった私が何を思ったのか。◆3年目。友人がガンに。術後の抗がん剤を拒否、食事療法を選択。その厳しさに「私にはできない」数ヶ月後「これをしなければ生きられないと思



「たから」という。何をしても、しないのも「どこまで本気で覚悟するか」なのだと思えらる。◆4年目。同級生が定年退職と同時に入院。「半年で必ず元気になるから」と言っていたのに、その「半年」の4日前に帰らぬ人。◆5年目。両側に海を見ての大佐渡山脈縦走。「この快感をも一度」で、利尻山に挑戦。体力、大いに不安。「途中で引き返してもいいから」と心を決める。◆7年目。突然の腰痛。横になると痛みがひどく、眠れない。10日後、新しい薬になって生き返る。◆8年目。町内会役員に。敬老のお祝い、旅行、運動会の企画・運営。喜んでもらえて、とても楽しい。◆10年目。カナヅチ返上を目指して教室に。「私、泳げそう」だったのに…5回目、帰宅後、朝からの記憶がない！検査の結果は「異常なし」。息の止めすぎで脳が酸素不足になったらしい。一生カナヅチと諦める。◆11年目を迎える今は「これから何をすればいいのだろうか」と考える毎日である。

「趣味を楽しむ日々…」



新潟支部

桑原光雄 (05)

定年退職後、新

潟明訓高校に6年

間非常勤講師として勤務。やっと自由な身、これからは自分の人生と思ひ、県社会福祉協議会の高齢者大学(2年間)に入学、同時に月3回謡と実用書道を習い始めた。

高年齢者大学は試験や宿題など一切なく、まるで学生気分。いろいろな分野で活躍してきた人達と友達もできた。講座は大学や専門分野の講師の講義や実技、講座を通じて様々なことを学べた。同好会もでき、日帰り旅行の会、カラオケの会に加入し、卒業後も仲間と交流ができた。謡はカラオケと同様に健康の維持にも効果的です。

実用書道は毎月大筆(漢字)、小筆(松尾芭蕉「奥の細道」冒頭

から)、時節の挨拶例文の手本が与えられる。上手に書けると〇がもらえて次に進める。励みとなる。

退職者の会のカラオケ同好会(スバルの会)にも加入している。JRの大人の休日倶楽部パスを利用して旅行を楽しんでいる。春の山菜、秋のキノコ採りが好きで山菜時期はよく山に行く。健康には充分留意し、趣味を生かして充実した毎日を送りたい。

「何とか元気です」



三条加茂支部

有坂 勝 (05)

高教組委員長を

退職後、各級議員の出馬要請は、頭を下げることは大の苦手と固く固辞して、平和センターや護憲フォーラムの活動を継続。

しばらくは県内外を護憲のテーマでいそがしく講演をして回ったこともありましたが、最初は担任した生徒の還暦同窓会で、先生の授業は眠かったと遠慮なく言われた通り、その後はチラホラ閑古鳥。

最近、「戦争法制の問題点と私たちの課題」といったテーマで、ある労組支部で話をする機会があ

りました。つい最近までは有事法制は危険云々と言っていたのとは違う土俵の情勢。なんととしても平和と民主主義を守りたい。老骨に鞭打って思っています。

古稀をむかえましたが、おかげさまでいまのところ夕方に飲む薬以外は必要がありません。平均寿命ぐらいいまでは何とか頑張りたいものだと、一日何回かのラジオ体操と、週何回かのスイミング、そして暇さえあればインターネットで囲碁を楽しんでいます。

最近、退職教職員全国囲碁大会に参加する機会があり、B級(2~5段)で16人中第7位でした。プロ棋士をめざそうかとひそかな野望に燃えています。

水泳は、年の功とでもいうのでしようか、順番だからやれということでの市の水泳協会の会長をつとめています。夏と冬の年2回の市民水泳大会。苦勞も多いのですが、とりわけちびっ子が一生懸命泳いでいるのを見ることがうれしくなっています。やはり、腐っても教員なのでしようか。



教え子を再び戦場に送るな！  
次の世代のために精一杯！

# 「戦争法」廃止を全力で！

事務局 内山正知

## 第24回参議院議員 通常選挙に向けて

第22回(2010年)選出の参議院議員は2016年7月25日任期が満了し、同期日までに次回第24回参議院議員通常選挙が行われる。

現在、参議院定数は242人、戦争法賛成議員が148人、反対議員90人、その他4人の構成。このうち、121人(賛成議員65人、反対議員56人)が改選議員。選挙後に反対議員が1/3を超えるためには反対議員47人以上が当選しなければならない。

中央では12月20日、「安民法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」が発足記者見を行った。市民連合は、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会などの5団体有志が呼びかけ人となっており、安保関連法の廃

止、立憲主義の回復、個人の尊厳を擁護する政治の実現、を大きな方針として参院選での野党共闘を要求し、候補者の推薦や支援を行う。

安倍首相は9条を含む憲法「改正」について、明文改憲に強い執念を示し続けている。自民党改憲草案にあり、ナチスの全権委任法(授権法)を想起させる極めて危険な「緊急事態条項」の創設などを、「お試し改憲」として、夏の参院選の争点にするつもりだ。このことから、今参院選はかつてないほど重要だ。



候補者統一のための野党懇談会 2016.1.26

## 新潟選挙区での取り組み

新潟選挙区の改選数は1減の1議席となるため、全野党統一候補の擁立が期待されて来た。すでに自民党は現職中原八一の擁立を決めている。

一方、社民党、共産党などの政党と、「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」などの団体が結成した、

『市民連合@新潟』は統一候補選出に向けて取り組んで来た。

共産党の西沢博、維新の党の米山隆一、生活の党元職の森裕子の各氏が立候補を表明する中、民主党は1月31日によりやく、衆院比例代表北陸信越ブロック選出、新潟4区の菊田真紀子氏をくら替え出馬させることを発表した。立候補者が出そろったと見て、候補者の一本化に向けて調整を始めていた市民団体等は戸惑いを隠せなかった。しかし、中央で野党

5党が「戦争法廃止法案」を共同提出し、さらに参院選での選挙協力で合意するなどの進展を受けて、統一候補選出の努力が続けられており、通信発行日直前の現在も調整が続いている。

私たちも「この政党はダメだ」、「あの候補者は…」などこのこだわりを捨てて、この選挙でしか為し得ない「戦争法の廃止」、「憲法改悪阻止」のため、比例区は新高教推薦・日政連の『那谷屋正義(民主党)』、選挙区は新高教が推薦する『候補者』の勝利を目指して、取り組もう！。

## ◆現職のいま

### 「県立高校の将来構想」の問題点



新高教本部副委員長  
吉田 裕史

今後10年間で3900人・97学級相当の生徒減があることから、県教委は「県立高校の将来構想」を2月県議会に公表する。12月1日公表の「素案」には次の問題があり、新高教本部は「見解」をま



とめ組合員に地域説明会参加やパブリックコメントを指示した。  
一、県民合意の高校改革になつていない

2002年は「骨子案」公表2か月後の「意見を聴く会」で、市長やPTA関係者などがそれぞれの会場で意見を述べた。しかし、今回は県議会「素案」公表3日後の12月4日から県下11会場で「地域説明会」として行われ、参加者は2002年の1540人には遠く及ばず840人に止まった。素

案には学校再編の具体性がなく質疑も93件あったが踏み込んだ回答はなかった。

二、小規模校の統廃合が加速する  
前回の「中長期高校再編整備計画」で「通学機会の保障の観点から中山間地域や豪雪地等にある学校は標準（4〜8学級）を下回る場合もある」としてきた文言が「素案」には無い。新聞にも「3学級以下は統廃合22校が検討対象」と報じられた。地域の実態や通学状況等踏まえ小規模校の存続

を強く求め「通学機会の保障」を成案に明記させていかなければならない。

三、5つのタイプに再編  
「専門分野を探索する高校」「学科総合型の産業高校」など従来の専門学科を再編していくことが示されている。4学級規模の専門学科高校もありこれ以上学級減すれば上記「統廃合の対象」になることも想定される。他県でも2〜3つの高校を統合して産業高校化している県もあり、「校舎制」も取

り入れるなどしている。どこが対象校となるかも示されず「姿」のみの将来構想となっており、地域説明会でも具体的な説明を求める声が相次いだ。

四、2018年度1308人減少  
現在の中学1年生が今後10年間の3分の1に相当する大幅な生徒減となっている。その募集学級計画も2月県議会に公表するとしている。該当校対策会議を開催するとともに地域や同窓会とも連携を図っていかなければならない。

### 本村毅先生のご逝去を悼んで

新高教元委員長 小山正明

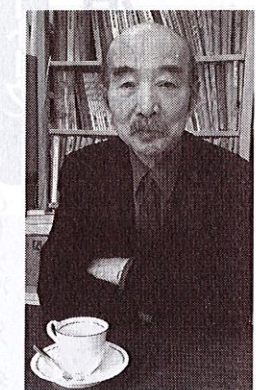
正月も明けやらぬ、1月10日夜、元新潟高教組委員長、新高退顧問の木村毅先生が、突然ご逝去されました。長年の新高教・日教組運動や県内労働運動等に卓越したご指導を戴き心から感謝の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

木村先生は、1970年の統一新高教結成時に執行委員に選出され、1972〜80年書記長、1981〜89年委員長を歴任し、20年間（7期）に亘って本部役員として新高教運動を創り上げてこられました。その間地公労、県評センタ

新高退の結成に尽力され、退職後は新高教・新高退の顧問をされ、新潟県モンゴル友好親善協会を設立し、モンゴル国から勲章を受けするなど国際交流に貢献されました。木村先生との出会いは、1972年私が高田支部書記長の時です。私は、1975年の全面対立となつた本部役選で選出され、突然の専従教文部長となり、その後の副委員長や委員長時代を含め、公私にわたって温かい御指導を受けながら共に闘ってきました。

人勸完全実施闘争、給与1号ダウン攻撃への闘い、主任制反対闘争と手当抛出で奨学金協会の設立、退職手当条例改悪阻止と7・5事件の闘い、柏崎・巻原発反対、高校40人学級や平和・同和教育の推進、反彈圧闘争、労働戦線統一・連合新潟設立、吉田正雄国会議員の誕生や選挙闘争等々限り無いほど多くの思い出があります。

元旦に頂いた年賀状には「お元気ですか、いつも懐かしく思っています」と書かれており、今年の新高教の旗開きにはお会いできると楽しみにしていました。が寂しい別れとなつて残念でなりません。



木村毅先生を訪問した日事務局事務局長

先生は、1970〜80年代の厳しい攻撃の中でも民主教育や生活と権利等を守り発展させてきました。73年の確認書闘争に始まり、

「木村先生ありがとうございました！先生は誰よりも新高教を思い、人生を捧げてこられました。労働運動や人間の生き方を学び、今も大きな教えとなっています。安らかに眠りください。」

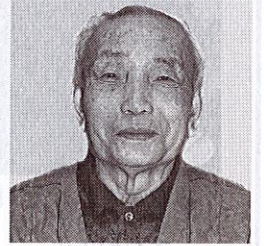
(合掌)



●戦争をした国の記憶(リレートーク)

「私のシベリヤ抑留生活①」

野村三十市 (85) (長岡支部)



私が終戦を迎えたのは朝鮮・「満州」国境の南陽の町であった。ソ連軍から散々撃たれながらこっちは一発も撃たないで、8月16日夕方戦いに負け全面降伏と聞かされて呆然とした。武装解除の命令があり、あれ程大切に扱っていた銃や剣が「がらくた」のように扱われてまた一段と負けた悔しさがこみ上げて来た。

翌朝、河の向い側の「満州国」図們に集合するようにとのことで、駐屯した所は図們糧秣庫の近くであった。ここで朝鮮出身者は家に帰るように言われた。先々の不安から逃げようという話も出たが、何所まで逃げればよいのかも分らずとも無理だとの結論になり諦めた。

数日してから間島に集合を告げられ、間島にしばらく滞在したが、ここで将校は別にされ、准尉が隊長になってまた行軍が始まった。何日間かの行軍の後ソビエト領に入り、小さな川の流れている

草原に来て滞在することになった。これから先は汽車に乗るということであったが、まだ誰もどこに行くのか分らない。海岸に出て船で内地に帰されると言うのと、シベリヤに連れて行かれるのではないかと言う話が半々であった。何日かたって出発し、いよいよ

汽車に乗せられた。勿論貨車である。皆不安で一杯であった。夕方動きだした汽車は、一晩中走り続けて、朝、明るくなってから停った。戸を開けてみると平原の真只中で原っぱの中に

ぼつんと工場があり、数戸の建物が近くにあった。歩いて10数分で有刺鉄線を張りめぐらせた建物に入った。2段ベッドの部屋を何とか掃除して各人の場所もきまり、とりあえず炊事係を決めて



日本兵の武装解除

集団生活の態勢に入った。水は近くの川から汲んで使う事になった。工場の引込線の線路工事をやらされたが、空腹で道具を持つのも難儀で、ただ立っているだけで、監視のソビエト兵が見つけると文句を言うがとて仕事にはならなかった。病気になって寝込む人も何人も出て来た。これでは駄目だとやっとなんか態勢を整えて、さちんと交渉を行い、それから食事等も次第によくになり、なんとか仕事らしい仕事ができるようになった。

このころになると建物の一部が病人の収容所になり、森林伐採に行った人たちがぞくぞくと病気で倒れ収容された。話を聞くと我々以上には厳しい環境で作業をさせられ、ほとんどが病人のような状態だと言っていた。

2月ごろになつてからも寒さが厳しく風が吹くとマイナス35度にもなり、作業中止の指令が出たこともあった。仕事も段々数多くやらされ、採石場のハツパの穴掘りやトラック

の積込み、煉瓦の貨車積みもやった。依然として空腹を抱えての毎日で、ある時、貨車から穀類の入った袋をおろして倉庫に運んできたが、雪の上にはこぼれたライ麦を手袋をとって拾おうと集めていたら、友人が「やめろ、指が凍っているぞ」と言ったので、見ると10本の指全部が付け根から先が日本蠟燭のように変色していた。必死になつて股のあいだに入れてこすった。指の感覚が戻った時は助かったと思ひ嬉し涙がこぼれた。

煉瓦工場では、次第に日本人が仕事の大半をやるようになった。私も煉瓦工場で働くようになり、乾いた煉瓦を乾燥室から出して窯に運びトロッコの所まで運搬する作業をやった。寒い間はよかつたが、暖かくなつてからはすっかり体力を消耗してしまい、遂に体調をくずして休養させられてしまった。

9月にコルホーズに移り、馬鈴薯の収穫に従事したが、ビタミン不足からみな鳥目になり、夜、用便に行く時は手を引いてぞろぞろと行ったことがあった。21年の冬は、健康がすぐれず休養設備のある収容所で暮し、体力の回復はなかった。(次号に続く)



# 『活動日誌』・点描

から離れず、うわの空で講演を聴く。石川さんにとつて、

■連合新潟高齡協第2回拡大幹事会(11月13日) 学習会を兼ねていたので地域高齡協役員も参加。事務局より以下の報告あり。①一般会計の約80%を占める「助成金」が、助成団体の事情により大幅な減額となるので、組織・活動のあり方の抜本的な見直し避けられなくなっている。②新発田地域高齡協は胎内、阿賀野の活動エリアを包含して下越地域高齡者協議会と名称変更する。③新潟地域高齡協の西蒲支部、南支部は解散する。④燕支部における活動は県史地域高齡協が担当する。■第5回「立憲主義と憲法第9条」県民の集い(12月3日)「戦災都市」・「非核平和宣言都市」の長岡で開催。空襲で県下最大の犠牲者を生んだ「戦禍」を考えると、集会への市民の反応には純いものが。高退からは13名が参加(内、長岡支部会員の参加8名) デモ移行前の講演「わたしが見た戦争と沖繩」の講師紹介のチラシにあったフォト・ジャーナリストの石川文洋(沖繩県出身)さんが、自らを「在日《沖繩人》」とする文字が頭

「本土に住む」わたしやわたしたちは、沖繩からの米軍基地撤去を「他人事」視している「内なる他者」、「内なる異物」としか映らないのだろう。敗戦後から戦争反対!を訴え続けてきた知念ウシさんの「基地を本土へ返そう」の声が聞こえてくる。■「通信」発送(12月3日) 12月1日発行の「通信」発送業務で、いつも案じられるのは、配布業務にあたられる役員の労もさることながら天候である。「通信」の手配り率は67%であるから、冬期の手配りのあり方の抜本的な見直しが避けられない。特に山間地を抱える広域支部での手配り時の好天をひたすら祈るのみである。■もんじゅ廃炉へ!高浜原発再稼働阻止全国集会(12月5日) 北陸新幹線初乗車で福井文化会館へ。集会後、西公園に移動し、実用化のメドも立たず、抜本的な見直しが求められている「夢の原子炉・もんじゅ」の「即時廃炉!」と、福井地裁により運転差止仮処分が言い渡された高浜原発3・4号機の「再稼働反対!」の声をあげながら、参加者

1200人が福井駅までデモ行進。会場前の道路には、右翼の街宜車が数台、久方に目にする光景。途中、警察の規制で福井地裁前に陣を取る街宜車から、「非国民!」の声がデモ隊へ。■安保法反対街宣(1月25日) 4人の主催者代表は、一様に夏の参議院選新潟選挙区での野党統一候補擁立を訴える。民主党は「迷走」の果てに候補擁立となったが、「不信感」は払いきれず、「暗雲」とならなければよいのだが。1955年、鳩山政権(当時は民主党)下の総選挙で、憲法「改正」阻止で実現した野党共闘の教訓に学ぶことができるか。正念場。■事務局会議(1月27日) 新高教から「15年度末退職者」(組合員)が21人の報告を受ける。前例がない少なさに驚ろく。採用が少なかったとのことだが、「それにしても」の感が消えず、新たな頭痛のタネに。3月末の現退共催の退職者激励会の計画変更も課題。

(木村昭雄)

# COLUMN

## 事務局へのたより

◆「署名用紙をお届けいたしました。新高退通信号外の充実した内容を、じっくりと読ませていただきました。皆様どうぞお元気で新しい闘いの年をお迎えください。」

丹羽昭子(新潟支部)

◆「先日の旅行の返金確かにいただきました。生涯学習委員会企画の旅行に久しぶりに参加。有意義で楽しい二日間でした。事務局の皆様にお世話になりました。ありがとうございました。」

◆「今回は最後になるのではと思うこと毎度ですが、元気のうちはご迷惑でも是非参加させてください。大変ありがとうございました。よろしく。」

飯塚篤夫(柏崎支部)

◆「内田です。今年も宜しくどうぞ。別紙、参考まで。」

弁護士 内田雅敏

内田弁護士提供の、「日韓合意を出発点に」、「村山首相談話に見る戦没者追悼の有様」は本部に残部がありますのでどうぞ!



※告知等

◆2016年度県委員会

期日 6月8日(水)  
会場 高校会館 3Fホール  
日程 13時～15時半

◆第35回総会

期日 6月22日(水)  
会場 新潟会館  
日程 受付 12時～12時半  
総会 12時半～14時  
懇親会 14時～16時  
懇親会費 2000円  
参加態様 代議員  
オブザーバー

◆来年度の生涯学習委員会企画

① 地域探訪  
日程 5月25日(水)～26日(木)  
方面 三条～下田  
※詳細は同封チラシに掲載  
② 研修旅行  
日程 10月12日(水)～13日(木)  
方面 酒田～鶴岡  
※詳細は通信124号に掲載

◆通信「戦争をした国の記憶」

「ワレートーク」

〈執筆者募集〉自薦、他薦不問。  
執筆して頂ける方は事務局まで

ご連絡を!

〈誤記訂正〉通信No.121号、P10記事3段L27「他に単語が少しは…」は「他に判る単語が少しは…」、4段L12「合格間違いと…」は「合格は間違いないと…」の誤記でした。(飯塚さんに陳謝)

◆新高退会員名簿

発行 2016年9月  
予告 6月発行の予定でしたが、都合により、延期します。

◆「戦争法の廃止を求める」

統一署名

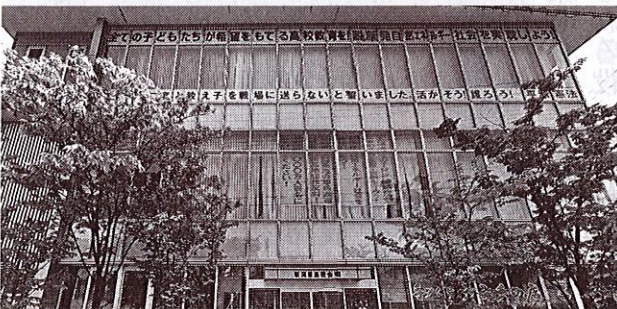
べ 切・2016年4月25日  
現在51名(250筆)提出されました。まだ提出されていない方の提出をお願いいたします。

◆新会員加入の取り組み

引き続き、過去の未加入者に対する加入取り組みにご協力を。加入見込み者の情報提供を事務局まで!

◆会費納入のお願い

今年度会費未納の方は、今年度中に納入を!



編集☆集☆後☆記

新高教の発展に大きく寄与し、新高退の顧問でもあった木村毅さんが亡くなられた。2013年11月には、事務局を訪れ、「モンゴル国から、外国人に授与する勲章の中で最高位勲章である北極星勲章を授与されることになった」と、うれしそうに、誇らしそうに語っていた姿が思い出される。ご冥福を祈りたい。

新しい高校会館は2010年に完成した。白山駅に面した窓ガラスには「私たちは二度と教え子を戦場に送らないと誓いました」の掲示がある。教職員の誓いである

とともに、戦後世代が背負った義務でもある。

現職教職員の退職者数減少、さらには近年世代の意識の変化により「退職者の会」への新規加入者が減少している。会員の意識が、それでもこの会を大切に、できるだけ維持していくのか、そのためには何が必要かを探

るべく、これらを担う69歳以下の若年層にアンケートを実施することにした。

「退職後10年の小さな自分史」は多くの方から寄稿して頂いた。そのため、次号以降に掲載となる方が出たことをお詫びする。

1985年に121校あった公立高校が、2015年には96校(内、中等7校)となった。30年間で25校がなくなった。この間、言わばその場しのぎの、学校統廃合が繰り返された。今後さらに22校が削減対象となる。小規模校がターゲットとされて、地元の学校がなくなる。これが大きな問題だ。(内山)

会員計報

謹んで哀悼の意を表します。

桜井 金義さん (新潟支部)	7・22	83歳
村井 正隆さん (上越支部)	12・5	71歳
村山 伸也さん (新潟支部)	1・12	76歳
木村 毅さん (新潟支部)	1・16	79歳
酒井 充さん (佐渡支部)	1・29	78歳